

第 1 部 東京オリ・パラは何だったのかー自衛隊の「活躍」というレガシーを粉碎する！

人のいない首都に迷彩服の自衛隊員が闊歩する様はまるで戦争のよう。「日の丸・君が代」の下、大量動員を訓練するのだから、それはまさに戦争なのだが・・・。

自衛隊の「見える化」で、監視、サイバーセキュリティ等と併せて、社会の軍事化が進んだ・・・。

1.2020 東京五輪への自衛隊協力ー大会組織委員会からの依頼に応じ 8500 人を動員

陸・海・空自衛隊の隊員による東京 2020 オリンピック・パラリンピック支援団。

セーリング競技・海上救護への協力は、海自横須賀地方総監が担当。

根拠法は、自衛隊法 100 条 3 項「運動競技会に対する協力」。同法は自衛隊の任務に支障を生じない範囲で、国際的な競技大会の運営に協力できると定めている。

100 条はもともと、雑則として「土木工事の受託」を定めただけのもの。しかし徐々に追加、オリンピック、国連平和維持活動（PKO）、米軍等への物品・役務の提供・・・現在 15 項目。約 7600 人が競技会場でセキュリティーチェックや沿道警備を担当、約 370 人が開閉会式や表彰式で国旗掲揚を行った。医官約 10 人が陸上自衛隊朝霞駐屯地の射撃競技会場に配置され、看護官約 70 人は各会場で医療支援。8500 人とは別に、上空の警戒監視やサイバーセキュリティー対策にも動員。

cf.警察官約 6 万人（過去最大）、民間警備（警備 JV）1.4 万人

2.具体的な自衛隊の任務

- 「国旗」等掲揚
- 射撃競技会場（朝霞駐屯地）での医療協力
- 自転車競技（伊豆方面）救急搬送
- セーリング海上救護
- 会場内外の整理への協力
自転車ロードレース（武蔵野の森公園～富士スピードウェイ）の沿道警備
競技会場等の関係者エリアにおける手荷物検査、車両検査等
- アーチェリー競技、射撃競技及び近代五種競技における運営協力

3.「活躍」？！

a. 2022.3. 20「聖火」の到着ー松島（宮城県）航空自衛隊基地 「復興」五輪？

*ブルーインパルス（松島基地に所属）

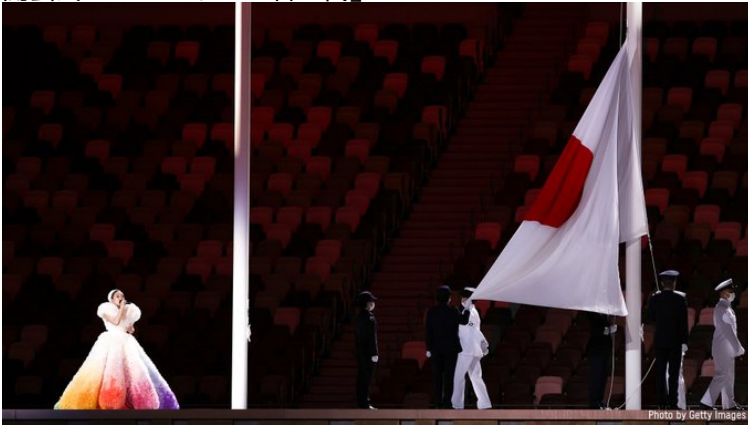
<https://www.youtube.com/watch?v=uVLMtwl-ZEg>



東京 2020 オリンピック聖火到着式ブルーインパルス映像

b. 2022.7.23 開会式 「国旗」掲揚、ブルーインパルス

開会式ーミーシャが「君が代」



閉会式ー宝塚歌劇団が「君が代」



c. 2022.7.24~25 自転車ロードレースー沿道警備等（約1,900名の陸・海・空 自）



d. 期間中、競技場警備

①競技会場周辺を含む我が国上空及び周辺海域の警戒監視

②大規模自然災害等が発生した場合の被災者救援支援

③サイバーセキュリティ対策

*セキュリティチェックへの協力には、東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県及び静岡県等の約40競技会場や選手村などにおいて、総勢約7,600名の陸上自衛官が従事。



e. 江ノ島、セーリング



f. 朝霞駐屯地一射撃場競技会場

g. 選手としての活躍・・・あまり目立たないが、柔道、フェンシング、ボクシング、レスリング・・・等、自衛隊体育学校がある。

★「活躍」のレガシーー 100年後の記憶？いや100年待つ必要もなく・・・。

- ・オリパラ教育の集大成として子どもたちの記憶の捏造
- ・迷彩服の自衛官を街中で闊歩させる。無人の街をまるで首都圏街地出動のような・・・。
→パラリンピックの学校連携観戦で動員された子どもたちの目にも・・・。
- ・式典での「活躍」
- ・ブルーインパルスー曲芸飛行だが。＊コロナでも飛んだ！
- ・公式記録映画、教科書・・・に登場→「日の丸・君が代」、愛国心、ナショナリズム、自衛隊・・・
→5年後、10年後の子どもたちの記憶の捏造
- ・もちろん子どもだけでなく、「街の風景を変えた」事実は人々の記憶に刷り込まれた。

↓

自衛隊の「見える化」で「戦時」と「平時」の垣根がなくなり、軍隊があることが日常化する・・・。

市民権を得る自衛隊→9条「改憲」ー自衛隊の明記

軍事費の増大、敵基地攻撃能力、南西諸島の軍事化ー軍隊や戦争への違和感がどんどんなくなる・・・。

cf. 安倍の葬儀（自衛隊「捧げ銃」）